

2-2 まちづくり教育実践報告

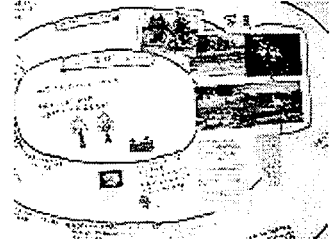
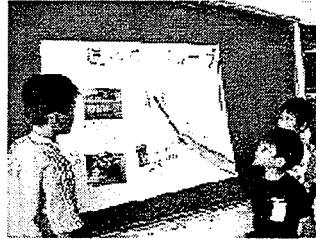
小学校の新しいまちづくり教育について、TOS S会員の小学校教諭が主に平成14年度に実施、及び企画した授業内容は、静岡、神奈川、群馬シンポジウムにおいて、実践報告及び模擬授業の形で紹介された。併行して実施された公開ワークショップとあわせて、その概要を中心となるテーマ分野別に整理する。

1. 都市づくり

タイトル	静岡県のまちづくりを学ぶ	分野	地域振興、都市づくり、交通安全・道路、福祉、スポーツ・レジャー振興、まちの緑化
実施校・学年	静岡県藤枝市立広幡小学校4年生 (2学級)	参加・協力者	保護者、藤枝市役所企画調整課担当者
授業内容・ 進め方	1. 事前学習 (場所：教室、音楽室、パソコン室) ・数人ずつのグループに分かれ、話し合い、事前学習 ・「こんな藤枝市にしたい」「そのために何を見てきたらいいか」「どの町に行けばいいか」を検討(まちづくり探検企画：山林保全、身近な緑や水の環境、バリアフリー、まちの安全など具体的なテーマと見学先を決める) ・保護者の参観会を実施(10月12日/事前学習の参観だけでなく、保護者を「学習ボランティア」と位置づけ、子どもに情報を提供してもらう) 2. まちづくり探検 (実施日時) 平成13年10月23日(火) 8:30~16:00 (参加者) 4年生児童計70名、保護者21名、教員 (内容) 各施設等を見学、担当者に話を聞く (探検場所) ・スタジアム：清水エスパルス・ジュビロ磐田両スタジアム(清水市、磐田市) ・ビオトープ：商工会議所(三島市)、サッポロボール園(焼津市)、柿田川公園(清水町) ・森や植物：フラワーパーク(浜松市)、バラの丘公園(島田市) ・やさしさ：楽寿の園(静岡市) ・にぎやかなまち：大井川町役場(大井川町) (事後指導) ・お礼の手紙(見学先) ・見学したことを調べ学習に加え、深まったまとめにする ・これまでの学習とあわせて、「未来の藤枝市」について考える ・藤枝市役所企画調整課に「私たちの考える未来の藤枝市」をプレゼンテーションしよう(プレゼンテーションを意識したまとめ方を考える) 3. まとめ (公開授業：同校先生方の研究授業として) (実施日時) 平成13年11月16日(金) (場所) 教室 (内容) まちづくり探検のまとめとして、 (1) 探検のまとめ発表 (2) 未来の藤枝市についての話し合い ：藤枝市をどんなまちにしたいのか話し合い ：具体的な提案を7項目に分類、発表(*後述)		

4. 市役所担当者へのプレゼンテーション

- ・プレゼンテーション用資料作成（画用紙、模造紙にまとめ）
- ・市民講座（出前講座：市役所職員が出向いて講義）
「まちづくりのためのワークショップ」（小学生版）
の形で、藤枝市役所企画調製課より6名の職員が
来校。プレゼンテーション実施。



■未来の藤枝市像は一（*子ども達の提案内容）

〈スポーツ〉

- ・トレーニングセンターがたくさんあるまち
- ・トレーニングセンターは蓮華寺池公園に作る
- ・アスレチックとプールと野球場
- ・葉梨と稲葉の境に山を削ってスタジアムを作る
- ・3～5年のうちにボール専用ジムを作る
- ・藤枝市の人のお金で作る

〈福祉〉

- ・みんなが楽に暮らせる藤枝市
- ・楽寿の園みたいな老人ホームみたいなものがある
- ・歩くところが広くて左右がくねくねしていて、車がスピードは上げにくい
- ・少しの段差もない。手すりがいろんなところにあって便利。
- ・市役所や設計事務所の人にやってもらう

〈安全で大きなまち〉

- ・藤枝市の真ん中に避難所を作る。
- ・2005年までにする。
- ・大井川町と藤枝市をくっつけて、危ない道をコミュニティ道路として、安全で近くの人と仲良くできる
- ・あった人とあいさつをする。毎日していればだんだん仲良くなれる。

〈植物・森林〉

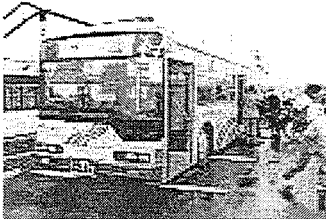
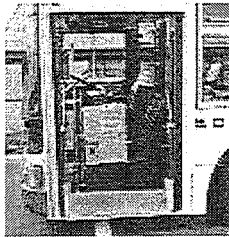
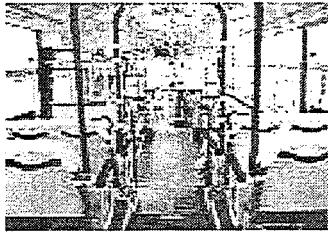
- ・交差点とか空気の汚れたところには、花や木を植える。
- ・ケナフをちびっ子広場や白子商店街に植える。
- ・種をわけて広報で呼びかける
- ・植物の日を作る
- ・その地域の人に1年に一度お手伝いをする
- ・新しくできる道路の横に木を植える。

〈レジャー〉

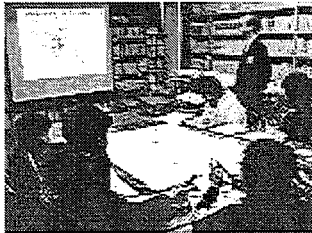
- ・大人も子どもも遊べる公園。
- ・蓮華寺池公園を広げてアスレチックを作る。
- ・動物がたくさんいる公園を作る。小さい子は楽しいし、お年寄りも楽しめる。
- ・募金やボランティアで公園を作る、お金を作る。
- ・多くの人々がふれ合える。
- ・掃除をする。

〈川や水〉

	・子どもが遊べる川がある。 ・川の近くにビオトープを作って石畳がある川。 ・川をきれいにしたり、ビオトープの生き物の世話をしたりする。 ・生き物がいっぱいいる川。 ・川のゴミを拾う。川にきたないものを流さない。 〈施設〉 ・蓮華寺池公園の近くに博物館を作る。 ・たくさんの人がゆっくり休める温泉を作る。 5. 公開ワークショップ（発表会）： （実施日時）平成14年11月22日（金）
報告形式	静岡シンポジウム／実践報告、公開ワークショップ（発表会として）

タイトル	バスから見えるまちづくり	分野	交通、福祉のまちづくり、地域振興
実施校・学年	静岡県掛川市立西山口小学校、1年生	参加・協力者	なし
授業内容・ 進め方	1. 普通のバス(掛川市内で今走っているバス)とノンステップバスの写真を提示 側面、正面、車内、出口の様子それぞれを並べて見せ、違いを見つけさせ、発言させる ●それぞれの側面写真提示 (発問)二つのバスの違いはどんなところですか →色が違う、模様が違う、形が違う … ●車内の写真提示 (以下同様) (発問)車の中はどんなところが違いますか →手すりがたくさんついている、床の広さが違う …    ●説明:「ノンステップバス」について「階段のないバス」というような形状を説明 (発問)このようなバスができるととってもうれしい人がいます。どんな人ですか →お年寄り、身体の不自由な人、お腹の大きなお母さん ●説明:掛川でも来年5月から走らようになったことを説明 (発問)お年寄りなどのほかに、どんな人が嬉しいですか →子ども、身体の不自由な人、掛川に遊びに来た人、車を持ってない人… 2. ノンステップバスの導入に伴う「まちづくり」について 説明:「大人にも子どもにも、身体の不自由な人にも、お年よりも、どんな人にも便利で、住みやすいまちをつくることを「まちづくり」といいます」 ●バス停の絵を提示 (発問)掛川では、このバスにたくさんの人が乗ってもらうために、他にも工夫していることがあります。バス停ではどんな工夫をしていると思いますか →字を大きく書いている、かわいいバス停 … ●説明:そのほかに行っていること(バス停の間隔を短くしたこと、運賃を全区間一律100円に設定、大人も子どもも一律としたこと) 3. その他の掛川のまちづくりの取り組み事例の提示 (掛川城再建、歩道の拡張、植栽、駐車場整備、イベントなど) 解説:“シャッター通り”と呼ばれるさびれたまちになってしまった掛川を、元気な町に変えるため、たくさんの方がまちづくりに取り組んでいることを解説。 (呼びかけ)「皆さんも掛川に住む一人として、チャンスがあれば少しでもこのまちづくりに参加し、全国に誇れる町にしていきましょう」 ●指示:「今日の授業の感想を書きましょう」		
報告形式	静岡シンポジウム／実践報告		

タイトル	駅前通から考えるまちづくり	分野	都市づくり(駅前の再開発)
実施校・学年	静岡県掛川市立西郷小学校	参加・協力者	まちづくり会社、行政担当者
授業内容・ 進め方	1. まちの玄関「掛川駅」について考える <写真を見て、考える> ●掛川駅、沼津駅、浜松駅、新宿駅の写真提示 (発問) 写真を見て気づいたこと、分かったこと、思ったことを書きましょう →他の駅前には高い建物がある。他の駅には店が多い、人が多い。… 掛川駅はいなか。掛川駅には木が多い、自然がある ●掛川駅の写真を提示 (発問) 掛川駅にはどうして高い建物(デパートやビル)がないのでしょうか →お金がない。人が少ない。借金がある。自然を大事にしている。… ●駐車場になっている跡地の写真を提示 (発問) 実は掛川駅にもデパートはあったのです。どうしてなくなったのでしょうか。 →人が来ない。儲からなかった。借金があった。浜松とかに行った。 <まちづくり会社の方の話を聞く> ●まちづくりのプロの方がいます。話を聞いてみましょう →(お話)人口が違う(浜松60万人、掛川8万人)。郊外にお店ができた。 駐車場があって車で行ける。など ●現在企画中のTMO計画の話と、企画中の駅前ビルのモデルを見せる。 (解説) 駅前にビルができますが、これを中心にしたまちづくりが進んでいます。 2. 掛川駅前通りを見学 3. まちづくりの視点を考える 4. まちづくりのプランを立てる→学年で検討 5. まちづくりプランのワークショップを開く →まちづくりのプロの人たちを招き、自分たちのプランを聞いてもらう まちづくりのプロに自分たちのプランを聞いてもらおう! 		
報告形式	静岡ワークショップ／実践報告		

タイトル	小学校周辺を観察、まちづくりを学ぶ	分野	都市基盤整備
実施校・学年	乗附公民館周辺の乗附小学校4～6年生 計7名	参加・協力者	(財)高崎市都市整備公社 乗附公民館
授業内容・ 進め方	●実施場所：乗附公民館及び周辺地域 ●日時：平成15年3月8日（土）13：00～15：00 <内容> 1. まちを学ぶ ・空中写真（高崎市八千代町の40年前、現在）を見て、気づいたことを整理し発表する。 →昔でも国道はあった。 - 森田橋はなかった。 - 乗附小学校がなかった。 - 田畑が家の数より多い。 - 建物があまりない。 など、驚きの感想が次々に出る ・まちの構成要素は何か（付箋に書き出し→皆で使うもの（公共物）と個人のものとに分けてみる） 説明：（財）高崎市都市整備公社担当者からまちの変化の要因、公共施設とは何かなどの説明を受ける  2. 現地観察 ・公民館周辺の道路、河川と緑道などを歩いて観察 ・（財）高崎市都市整備公社担当者が道路幅の決まり、まちの構造物、緑道などについてそれぞれの場で説明  3. まとめ～まちづくりって何だろう～ ・まちづくりの方法、道路の役割、橋と川などを学習 →「橋が欲しい」と思うところをプロット （都市整備公社担当者より「そこは今計画中の場所」「専門家と考えることは同じだね」とのお話） ・気になる大規模工事について学習 （聖石橋の架け替え工事、観音山ファミリーパークなどの大規模工事の内容と進捗状況の説明を受ける） 		
報告形式	地域ワークショップ（群馬シンポジウムに併行して開催）		

タイトル	街のよさを知り、よさを生かす	分野	まちづくり協定とコミュニティ活動、自然環境
実施校・学年	(授業企画)	参加・協力者	未定
授業内容・ 進め方	1. 湧き水と歴史の街座間を知る ●座間市市制 30 周年記念「ぎまの水」を見せる (発問) 缶を見て分かったこと、気づいたことをノートに書きなさい (発問) 缶の品質表示を見なさい。原材料は何とありますか →水道水 説明:「そうです。これは座間の水道水なんです。」 ●実験:会場の水道から汲んできた水と、缶の座間の水道水の塩素の含有量を調べる(座間の水道水にはほとんど消毒用の塩素なし)。 説明:座間の水道水は地下水を使っている。座間には地下水が豊富で、番神水、亀井戸、龍源院などたくさん湧き水がある。座間は湧き水の周りに歴史ある街を作ってきたこと。 2. 消えていく座間のよさ、取り戻すために立ち上がった人たちについて 説明:座間の人口がこの 20 年で急激に増え、県下 4 位の人口密度となった。マンションが立ち並び、160 年あった湧き水は数が半分になった。 (発問) このままでよいのですか。どうしたらよいでしょう。 → (指名) 説明:「まちづくり係の人たちは、座間の歴史ある街並みがなくなるのが残念で、湧き水の街座間を残したいと思い、街並みを守る計画(まちづくり計画)を立て、鈴鹿地区の住民に説明に行きました」 (発問) 地域の人たちは喜んだと思いますか。思う人は? → (挙手) 説明:喜ぶどころか、反対したのです。 (発問) なぜだと思いますか → (指名) 説明:「「まちづくり協定」が結ばれると、家の形や大きさに決まりができます。自分の家が自由に作れなくなると考えたのです」 ●有山さん(地域住民のリーダー格の人)の写真提示 説明:「この人は昔から座間に住んでいる人です。この人がまちづくり案に最初に賛成し、地域の人たちを説得しました。研究会も作りました。そこではいろいろな所のまちづくりを見て回りました。最初乗り気でなかった人もだんだん「こんなきれいな道路がうちにもあったら」と言うようになりました。それから計画が実現していきました」 3. 地域住民の独自の活動に発展したまちづくり計画 (発問) 地域の人たちは喜んだと思いますか → (挙手) 説明:今度は地域の人たちは喜び、自分たちでも独自に蛍とトンボを川に呼び戻す活動を始めたこと。 ●蛍の人工孵化により、街に戻ってきた蛍の写真提示 説明:他の活動の紹介(花いっぱい運動など)。市は「まちなみ景観努力賞」を創設、毎年まちなみ景観をよくする功労者に賞を送るようになったこと。 ●有山さんの写真 (発問) 有山さんは、まちづくりについてどんなことを言っているでしょう → (指名) 説明:「市民は公園を作ってくれと要望する。でも作った後の活用や管理は市任せだ。要望したら、自分達が身体を動かして活用することが大切。街は自分たちで作るものだ」 (呼びかけ)「まちのために、皆にできることは何でしょう。これから考えていきましょう」		
報告形式	神奈川シンポジウム／模擬授業		

